



「勝手の家」によろこそ～

第35号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www11.ocn.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成26年10月30日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく

ケアホームCOCO : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3

TEL 0439-67-3711

豊岡光生園

: 〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

0439-68-1711

相談支援センター天羽

0439-68-1833

三芳光陽園

: 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園

: 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

ひなたホームズ

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

風と語ろう

『何とかしなくちゃ』

「福祉系の大学や専門学校への進学を希望する高校生が減っている」と言われ出したのは、いつだったか。その時すでに、福祉の担い手不足が懸念されていた。現在は、その頃よりずっと福祉サービスのニーズが増大し、従事者数は増えている。とりわけ介護保険制度の施行後、介護職員数は三倍となり、十年後には今よりも百万人近く必要と推計されている。

そして来年には、いわゆる「団塊の世代」の全員が六十五歳以上になる。ますます労働力人口が減少し、人手不足による休廃止に陥る事業所が増すだろう。もっとも、人材不足は福祉事業だけでなく、建築業、外食産業、医師、看護師、IT技術者と、ありとあらゆる職種になっているが。ドライバーも慢性的な人手不足状態が続いているそう。特にバス会社が運転手確保に躍起になっている。バスの運転には大型二種免許を取らなければならない。しかし、それには普通免許取得から三年以上が必要となる。それゆえ必然的に中途採用となり、大型二種の免許を持っている人の奪い合いが起こるという訳だ。

そんな中、あるバス会社は独自の方法で人材育成を行っている。高校卒業生を採用し、数年、整備や事務などを担当させた後、免許を取得させる。その分、育成費用や人件費がかかる。だが、この取り組みは、人材確保に汲々としている企業のヒントになるかもしれない。

世界でも例をみない勢いで少子高齢化と人口減少が進んでいる日本。若者が東京へ集中し、地方には、より一層仕事がなくなっていく。このことが過疎化に拍車をかける。

先進国で田舎の人口が減っているのは、日本くらい。欧米人は、成功したら、チャンスがあれば田舎へ帰ろうと、みんな思っているらしい。この考え方が産業を地方に分散し、人を移動させることになる。欧米の猿まねから進んだ日本の近代化できたなら、この点も欧米ナイズしていけば、地方は元気になっていくのだが。

今、社会福祉法人は、幾つかの改革を迫られている。「地域における公益的な活動の推進」「法人組織の体制強化」「法人の規模拡大・協働化」。加えて、「法人運営の透明性の確保」「外部監査の義務化・第三者評価の受審促進」。この他に課題も山積だろう。

さらに、社会福祉法人への風当たりは強くなりそう。課税強化案が浮上しているのだ。介護や保育への企業参入が広がる中、社会福祉法人だけを

優遇する必要はないとの考えで。うち（薄光会）の老人ホームには積立金もなければ、税金を払うまでの利益もない。これが難題だ。

日中活動事業所にとって、ガソリン代の高騰は死活問題。そこに、送迎車輛の購入費用が重くのしかかる。

開所時、三コースで始まった鴨川ひかり学園の利用者送迎。三コースが四コース、四コースが五コースになり、一年前からは、多い日に八台が動く。車椅子用リフト付きマイクロバス二台とワゴン車六台の面々は、ベテラン揃い。現役十四年目の車輛を筆頭に、十年選手は、計四台なり。

彼らにも、迫りくる高齢化の波。しかし、買い換えの財源は？これも、「何とかしなくちゃ」

栗原



湊ひかり学園

学園新聞

「そうめん、

流してみました」



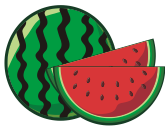
食べるのが大好きな方揃いの湊ひかり学園。クッキング・焼き芋・食事会など、毎年食べるイベントを多く企画しています。今年の夏は例年になく暑い日が続いたので、夏の思い出作りと一時の清涼を求めて、『流しそうめん』にチャレンジすることにしました。

まずはそうめんを流す竹を切り出すところから始め、連日三〇℃を超える暑さの中、準備作業を進めました。



まずは竹を搬入！

なにぶん初めての試みなので、試行錯誤の連続。暑さで参ってしまいそうでしたが、ついに流し台が完成。当日は夏休み期間中でしたので、生活介護、地域活動支援センター、放課後デイサービスの三事業の利用者が参加できました。



さあ、眼を輝かせ、お腹を空かせた皆の期待を乗せて、待ちに待ったそうめんを投入！無事にそうめんが流れました。



さあ、流しそうめんが始まりました！



そうめんは順調に流れましたが、逸る気持ちとは裏腹に、なかなか上手くそうめんがすくえません。結果的に『そうめん流し』という形になってしまったので、職員がそうめんを取り分けることに（苦笑）。皆さん食欲の方は旺盛で、どんどん食べていきます。中には流れきったそうめんを、受けたザルの中から直接食べる強者も出現。そんなに焦らなくても、お昼にもちゃんとしそうめんがますます皆さん。もちろんお昼のそうめんもしっかり完食したのは言うまでもありません（笑）。



皆さん、流しそうめんに夢中！

そんなこんなで形はどうであれ『流しそうめん』の雰囲気は体験していただけたようです。皆さん思い思いに楽しんで、美味しそうにそうめんを頬張る姿が印象的でした。夏の思い出作りもでき、好評のうちに終了したのでした。

『食欲』の次は『収穫』の秋と云うことで、今年も「湊米」の稲刈りを行いました。昨年は天候不良や稲刈り機の故障に悩まされましたが、今年は稲刈り機の調子も良く、『チーム地活』の精鋭部隊の活躍や保護者の方のご協力により、順調に作業が進みました。

今年も皆さんに美味しい新米が提供できそうです。



お米の方は順調でしたが、畑の作物の生育は今ひとつでした。記録的な異常気象の影響なのか、はたまた職員の手入れが足りなかったのかは分かりませんが（苦笑）。サツマイモも葉っぱが変色しているものが目立ち、収穫量や出来具合が心配されます。秋に予定している収穫祭の開催も、これではピンチか！？ 美味しい御飯は食べられそうですが、芋御飯の芋はなくなってしまうそうです。（森田）



「笑顔があふれるこの場所で」

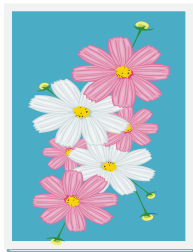
気候の変化が激しかった夏後半、すっかり風邪をひいてしまった私。何日か休みを貰った後、マスク姿で学園に行くのとたくさんの利用者さんが「高梨さん大丈夫？」と笑顔で出迎えてくれ、クっっっ胸が熱くなりました。「そうそう、この笑顔だよなあ……」



私が鴨川ひかり学園に就労してから半年が経ちました。学園がある曾呂で生まれ育った私は、利用者さんが散歩している姿を時折目にする事が有り、いつもハツラツとした表情が印象に残っていました。「そんな利用者さん達と接することができたらいなあ」との願いが叶い、職員になった私を利用者さんは笑顔で迎えてくれます。

朝一番、「おはようございます」の挨拶でニッコリ微笑みかけてくれるのは山ノ井さん。その笑顔は朝から私の心を温かくしてくれ、元気をもらえます。

後ろからの急な「わあー!」との声に「うわわ!」と驚きながら振り返ると、そこには、手を口にあてながら「してやったり」の表情で笑う恵理さんの姿が。このやりとりもよくある朝のワンシーンです。



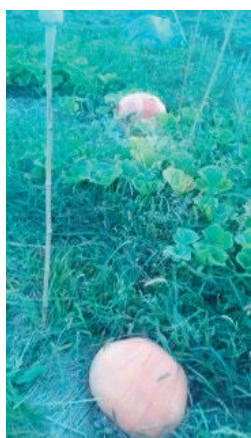
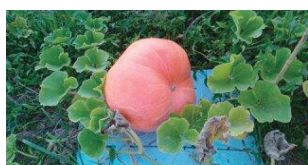
いざ活動が始まれば、そこにもたくさんの笑顔が弾けています。音楽が流れる場所では、ルンルンと踊りながら基代さんと昭太さんが。ボールで体を動かす活動では、小柴さんや小倉さんが。マット運動では水谷さんが。みんな本当に「笑顔」。そしてその笑顔には、ひとりひとりに違う魅力があり、みなさん純粋で、たまらなく素敵なのです。

(高梨)



「ジャンボカボチャ収穫交流会」

五月に太海小学校の三年生と種まきをした「ジャンボカボチャ」が大きくなり、収穫をしました。



カボチャを運んでいる際には、小学生達から即興の掛け声が！前日の雨もすっかり上がり、気持ちの良い青空のもと、とても楽しい交流時間となりました。

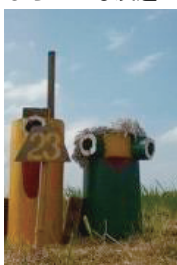


「今年もぞくぞく! 鴨川ひかり案山子」



オルカウーマン

ようかいな友達



妖怪ウオッチ



ジャンボカボちゃん

なのはな村、みんなの里に計九体を出品し、すべて各スポンサー賞に輝きました。

園だより

「飴と鞭」

ユニットの扉を開けると、真っ先に聞こえて来るのが今井さんの声です。目が合うと、他の方と話しをしていますが「あつ、齋藤さんだ!」と挨拶をしてくれます。

今井さんにはいろいろ「今井さんルール」があります。お風呂は一番後に入り、飲み水は自分専用のペットボトルでしか飲まない、テレビはTBSが好きで他のチャンネルはなかなか見ません。

そんな今井さん、土曜のお昼だけは日本テレビにチャンネルを合わせ三分クッキングが始まると、「キューピー四分クッキング」とわざと間違え私の方を見てください。

私は「三分だろー」と言い返すと今度は

「五分クッキング」とかぶせてきます。

このやり取り、なかなか終わらないので最後は今井さんを追いかけて脇の下をくすぐると笑いながら逃げて行き、ここでもよく会話がおわります。こんな仲の良いやり取り、職員の中でも出来るのは数少ないのではないかと、少し優越感を抱いてしまつ私です。

夕食の時間になるとキッチン周りのカウンターにお弁当の蓋を止めてあるシールが綺麗に貼られています。これも「今井さんルール」の一つ、私は「今井さん、シールは剥がして下さいね!」と声を掛けると「齋藤さん嫌いです」と真顔で返してくる。あれ? 私たち仲は良かったはずでは……と思ひ、もう一度言つと、「齋藤さん嫌いです」とやはり同じです。



嫌いと言われると少し落ち込んでしまつ私。落ち込んでいる私を察してくれたのか今井さんは、「キューピー十三分クッキング」と言い私の方をチラリ。「今井さん、十分も増えていますよ!」と笑顔で

答える私。入職して一年が過ぎましたがまだまだ打たれ弱い私に気づかひをしてくれた今井さんのやさしさに触れ今日も一日が過ぎていきます。

齋藤 孝太

「食べられるなら動くわよ」

立秋とは名ばかりのまだまだ暑い昼下がり、最近歩く機会が少なくなった八木下さんをお誘ひし、散歩に行こうと交渉開始。

八木下さんはどっしりとあぐらをかいて座っている。内面は結構シャイなところがあり、実はフルーツ大好きな女性なのだが、腕っ節が強く男勝りのパワーを持っていて、なかなかの頑固。そう、なかなか動いていただけない。

なんとか歩いていただこうと声を掛けるが、両手を上下に動かしながら「バアア」「歩かない」と意思表示。八木下さんのこの動き、この声……今日の散歩は難しそう。しばし声を掛けたり手をつなぎ誘ってもやはり全く歩く気にはなってもらえない。

そのよつなやりとりの中、ここ数日保護者からいただいた梨が食卓へ並んでいたことを思い出した。「今日もおやつにフルーツがでるかも。見に行ってみましょうか」と八木下さんをまた誘ってみる。『今、フルーツって言ったわよね』八木下さんの声が聞こえた気がした。少し疑われながらよつやく交渉が成立、ほどなく八木下さんは腰をあげた。

残暑がまだ厳しく、少し動いただけで、じんわり額に汗がにじんでくる。敷地内を少し歩いた後、涼を求めて建物の中へ。事務所へ辿り着いたが、未だお目当てのフルーツになかなか出くわさない。

ついに暑さで歩き疲れた八木下さんは、園庭でその場に座り込んでしまった。私は八木下さんに合わせる顔がなく「あんなこと言わなければよかった……」

うつむくしかなかった。

そんな時、「サクツ、サクツ」と間違いなくスイカを切っている音が聞こえてきた。その音がするユニットキッチンの方を見ると世話人さんが、真つ赤なスイカを手によくカットしているではないか。

ようやくスイカ発見。私はつそつきじゃないことを八木下さんに伝えたくて何度も何度も声を掛けた。「スイカはこの後食べれるよ!」八木下さんの表情にも笑みが浮んだ。

ユニットの網戸を開けようとする、世話人さんが網戸を開けてくれ「おひとつどうぞ」と手渡してくれた。

大きな口をあけ一口でパクリ。

『もつひとつほしいの』

八木下さんの伸ばした手が

世話人さんにそう言うっていた。私はつそをつかずに済んだことでホッとしてしまい何個もスイカを八木下さんに差し出した。結局いくつ食べただろうか。

「あれ? もう少しダイエツトするんじゃないか?」と世話人さんからポソツと一言。ダイエツトはまだ明日から頑張ろつという事になった。

安田 佐織



太陽のしずく

ある日の「にやり・ほっと」

あーした天気になーれ



近くのコンビニに行った。
スチールとアルミの分別をしているサイクルリチー
ムのいつもの空き缶回収だった。

体の大きなナオトさんが、袋いっぱい空き缶を詰め込んで車に積み込んだ。すぐにナオトさんは、店の中に引き返す。お目当てのものがあからだ。

読者諸氏。お菓子や飲み物なんかじゃない。

実は、カウンターにある無料のチラシ。いろいろある。これがナオトさんの楽しみなのだ。

そうと分かっている、職員はちょっぴり心配で
ついていく。

すると、きわめて自然な口調で店員さんが言った。

「この方、いつも自分の気に入ったチラシを持って
いくだけなんで、ずっとついていなくても大丈夫で
すよ」



なんだかとてもうれしかった。
ただ、ただ、うれしかった。

(I)



【石の上にも三年】ただいま修行中
その一

「共・友」



自分は、先輩職員と、とてもよい信頼関係を築いていて、傍らから見てもお互いが気持ちを受け止めあっているような感じでした。

自分もルイさんとそうありたいと思い、一緒に歩いたり、体を動かしたりしましたが、なかなか受け入れてもらえず、ルイさんの気持ちに触れてくれている接し方を変えながら日々を過ごしていました。

ある日のこと、あいさつ
代わりのおでこ合わせをする



るようになり、肩を軽くたたき合うようになりま
した。そんなやり取りが、ルイさんのツボにはま
ったのか大きな笑いが始まりました。その大きな
笑い声と笑顔に接しているうちに、自分の思いが
通じたのかなと思いましたし、気持ちを少し受け
止められたように感じています。

利用者さんの楽しみや喜び、
悲しみを分かちあっていた
という手ごたえと、



お互いの思いが通じ合ったという嬉しさを
「共」に分ち合い、そして「友」になれるよう
に、一緒に日々を過ごしていきたいと思っています。

飯田 浩一

その二

もう一人のチューター

私はこのお仕事に就いて、初めての食事支援で
英樹さんと出会いました。そのときのことは今で
もはっきりと覚えています。

新人の私には「チューター」という先輩職員が
支援についての色々なことを教えてくれます。し
かし、そのとき、それ以上に教えてくれたのが英
樹さんでした。

例えば、お弁当を食べやすいように細かくして
も、なかなか食べてもらえず困っていました。し
ばらく時間が経って、ドレッシングをかけた野菜
が少し、しんなりしてきました。すると英樹さん、
その野菜を一口ぱく。

「そっか」



英樹さん食べやすくなるタイミングを自分で図
っていたんだなと気づきました。

同時に、私にはもう一人チューターがいると、ふ
と感じたのです。それから、いろいろ英樹さん
から気づかされています。英樹さんこれから、
もっともっと私に教えて下さいね。



丸 裕太

光陽

『食べるということについて』

介護保険制度の改正が迫っています。

利用者負担が二割になるとか、通所の介護予防が市町村の事業になるとか色々言われています。

あわせて、社会福祉法人のあり方についても色々な検討がされているようです。介護保険施設は、内部留保が取りざたされており、課税の議論もなされているようです。

施設を運営していくのが、難しくなっていくのが予想されますが、制度がどう変わるかが、社会福祉法人のあり方がどう変わるかが、鈴木理事長の遺言だけは守っていかねければなりません。

自分が三芳光陽園に異動するにあたり、鈴木理事長から「年寄りの最後の楽しみは食べることだ。三芳光陽園の年寄りには、長狭米のコシヒカリを食べさせてやれ」と言われました。自分はこれが、鈴木理事長からの遺言と考えています。

厨房が直営から委託に代わっても、これだけは守ってきました。したがって、お米だけに限らず、お年寄りの食べるといふ楽しみは、できる限り提供していけるようにしていきたいと思っています。

三芳光陽園に異動して十一年になります。

お粥がどうしても嫌で、普通のご飯を食べ続け、誤嚥性

肺炎を繰り返し、亡くなられたおじいさんがいました。「茂八の卵焼きがたべたい」と言い残し、亡くなられたおばあさんがいました。

「カップラーメン、カレーライスにハンバーグ、マックスコーヒー」先日、施設で看取ったおじいさんが最後まで反応してくれた言葉でした。

亡くなられた方々を思い出す時、なぜか最初に浮かんでくるのは食にまつわるエピソードです。

不思議なこともありました。

嚥下が悪くて、お茶にトロミをつけても、どうしてもむせてしまうおばあさん。なぜかビールはそのままで、ごくごく飲めました。

作業療法士の先生に質問したら、

「炭酸の刺激がのどに良いのかもしれない」との回答でした。納得していいのやら、悪いのやら、複雑な心境です。

ノンアルコールビールで、自分たちが酔っぱらった時と同じような状態になって、幸せそうなおじいさんがいます。「園長に飲まれた」と嬉しそうに笑ってくれます。

「食べるということ」それは、いくつになっても、どんな状態になっても、どんなに制度が変わっても、楽しみでなければなりません。（昨晚の夢の中に、なぜか鈴木理事長が出てきたからでしょうか？）

天高く 施設長肥える 秋に

三芳光陽園 施設長 神谷

『今月のにやり・ほっと』

九月一日、防災の日。

千葉高齢協の非常災害対策委員会の連絡網訓練がありました。

「伝達の文章は、各委員で考えてください」とのお達し。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災の記憶が薄れてきているように感じる今日この頃、あの大地震を忘れてはならないと思い、

「東日本大震災のような大規模な災害に備え、もう一度安全点検をしましょう！」という伝達文章を安房地区の施設に回させてもらいました。あの時の教訓を生かしていかなければならないと改めて感じました。

そんな日の朝の出来事です。

自分がお年寄りの食事の介助をしていると

隣のテーブルのやいさんが、

「関東大震災の時は八歳でね…」と、話してくれました。

そのあと、

「あなたは何歳だった？」



「…生まれてません。わたし、昭和三十九年生まれます。明治じゃないんですよ…」
でも、やいさん、なんで怪訝そうな顔するんですよ。そんな年に見えるんでしょうかね？

にやり・ほっと担当

COCO de COCO



仲良くゴール

「ねえ、私をみんなの所へ連れてってくれる?」
まさか、そうしてくれるとは思っていなかったのに、千原さんはさっと手をつないでくれました。

豊岡光生園増改築工事の竣工式が終わったばかりのホテルの駐車場には、仲間を待つ人たちの立ち話の輪が、あちらにもこちらにも……。すぐそばのエントランスには、どこに行ったらいいのかと、不安そうに独りでしゃがみ込む、千原さんがいたのです。

「さあ、行こう。」

声をかけると、自分が乗る車に向かって、手をつないだまま、私の一歩先へ先へと歩いていきました。私より更に背の高い千原さんの横顔が、今までで一番頼もしく見えた瞬間でした。



みんなの所まで、あと二十メートル、十メートル……とその時、さっと私の手は振り払われてしまいました。千原



さんは、仲良く手なんてつないでいないよと言わんばかりに、知らん振りをしています。

普段、あまり関わりがないだけに、私が声をかけたら、どうしてくれるのだろつという期待が、膨らんでいた時のことでした。この時点で、最後まで手をつないだままゴールするという、私のささやかな夢は、残念ながら叶わないことになってしまいました。みんながいる前で、きつと恥ずかしかったのでしょうか。でも、あの時の千原さんの手から伝わってきた優しい気持ちには、私にとって忘れられないものとなりました。

そんな頼れる千原さんにまたお目にかかりたいと、私は秘かに、心待ちにしているのです。

塩崎

試合はお揃いのズボンで

私がケアホームCOCOに来て、もう一年。今日は、買ったばかりの動きやすいズボンをはいてのホーム入りです。

ホームに着いてすぐ、



「あっ! 葉子さんとお揃いだ!」

私と葉子さんは体格が同じ位なので、かなりの確率で、お揃いになります。お揃いだったのが何だ



か嬉しくて、二人並んで、ニヤリ。

ただど葉子さんは、そんな事には構わず、いつものように台所をのぞきたくて、リビングと台所の間を行ったり来たりしています。

そこで私もその後をついて台所へ。

「あーっ! それは持ってっちゃダメ。」



なんと葉子さん、台所に置いてあった小玉スイカを小脇に抱え、ラグビー選手のようにリビングへむかいます。それではと、私もそのスイカを追いかけます。「ウフッフ」と、笑う葉子さん。なかなかスイカは奪い返せず、追いかけては続きます。なんとも手強い選手です。ハーフタイムまで世話人さんもこの試合を観戦です。

* * *

これから、同じ服が増えるかもしれないけれど、宜しく願いますね。今度、お揃いのユニフォーム作りましょうか。

山崎 由美恵



編集後記

いよいよ秋到来。山は色づき始め、まるまる肥ったサンマが店頭に並んでいます。先日は、さつまいものつかみ取り大会に参加し、片手いっぱい秋を手に入れました。食べ物が本当においしく感じられる季節。おいしいものを食べてにっこり、そしてほっこり過ごしたいですね。(S&A)